

(1) 求められる京都府の教員像

「求められる京都府の教員像」は、本府の教員を育成するために、最初に明らかにしておかねばならないものである。校種や地域、学校の状況などにより、求められるものは様々であるが、「人材育成に関するアンケート」の結果等も踏まえて、「教師力」向上に関する検討委員会では、下記の5点に整理された。

(資料1を参照してください。)

- 児童生徒に対する教育的愛情と、教職に対する使命感・情熱を持っていること。
- 豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれていること。
- 高い「授業力」を持ち、児童生徒に確かな学力をつけることができること。
- 社会的良識と自ら学ぶ意欲を持ち、児童生徒や保護者、職場の同僚、地域の人から信頼されること。
- 「ふるさと京都」への理解と愛情を深めるとともに、国際的な視点に立った教育を推進することができること。

多くの府民が教員に期待しているのは、児童生徒に確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、一人一人の自主性や個性を尊重しながら、使命感と責任感をもって職務に励むことではないか、というように考えられる。児童生徒は、教員の直接的な言葉はもとより、その言葉を発する教員自身の生き方や人となりに大きな影響を受けるものである。教育に関する指導技術や知識の習得、今日的な教育課題への対応力の向上が大切であることはいままでもないが、教職が児童生徒の全人格的な成長に関わるものである以上、教員自らが、人格の陶冶を目指す主体そのものでなければならない。

この「求められる京都府の教員像」は、教員志望者にとっては「目標」にするべきものであり、また、現在教員である者にとっては不断に意識し省みるべきものなのである。